

春秋会

ニュースレター

2023.10



今月の予定

- ・ 10/11 (水) 18:30～
研修委員会・若手会共催
「刑事弁護研修」
- ・ 10/18 (水) 12:00～
幹事会
- ・ 10/30 (月) 11:00～
政策委員会主催「シンポジウム『税務調査と弁護士』－弁護士が活躍できる理由」
- ・ 10/31 (火) 18:00～
若手会主催「屋形船企画」

今月は「大弁運動会」と「島めぐり」を取り上げます。

「島めぐり」には、ある仕掛けがあります。ぜひお読みください！

「大弁運動会に初めて参加して」

喜田崇之 (61期)

9月17日、万博記念公園にて、大阪弁護士会大運動会に初めて参加させて頂きました。

午前中は私の4歳の子が初めて参加する水泳大会と一緒に一緒に行ったので、昼過ぎに会場に着きました。参加されている皆様がとてもリラックスしておられましたし、競技に参加されている方々は、中には楽しそうに笑顔で、中には表情は真剣そのもの（鬼の形相?!）で、それを見ているだけでも楽しめる雰囲気でした。



私は、最終種目の会派対抗リレーに参加しました。

数か月前に、由良先生から春秋会のリレーに参加するように打診を受けており、20年以上前ですが陸上競技で200m、400mを専門でやっていたという変なプライドと、この数か月ジムに通って体作りをしてきたという妙な自信に駆り立てられ、かつて常勝軍団だったという春秋会リレーチームの復権に貢献できるのではないかという気持ちでいました。

2023 年度 広報委員

- ・松尾 洋輔 (59 期、委員長)
- ・溝上 絢子 (57 期、担当副幹事長)
- ・西原 和彦 (55 期)
- ・堀川 智子 (57 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・柳 勝久 (61 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金星 姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高一 成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・オ木 晴幹 (72 期)
- ・中岡 さつき (72 期)
- ・中西 教子 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・山本 こずえ (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)
- ・秦 尚輝 (74 期)

5 番手か 6 番手くらいで 7 走の私にバトンが渡されました。ところが一周 200m の小さなコースの最初のカーブで体をコントロールできずにスピードに乗れず、直線に向かってからようやくスピードを上げようとした瞬間に、これ以上出力すると痙攣ではすまないようなヒラメ筋とハムストリングスの警笛を感じ、そのまま両筋群を極力使わずに流すように走るしかできませんでした。グラウンドを颯爽と走っていたあのときから 20 年以上の時間がたったのに、たかだか数か月スクワットしたり少し走っただけで、簡単にブランクは埋められないということを感じさせられました。

春秋会チームの結果は、6 着でした。途中で激しく転倒された先生もいましたが、大きな怪我なく全員無事にゴールできたことだけはよかったです。

一緒に来てくれた 4 歳の子は、午前中にもらった金メダルをぶら下げながら、露骨な期待外れの視線を、容赦なく私に突き刺してきました。これからどんどん成長していくであろう我が子と何とも対照的な自分の姿に、もう少しだけ年齢に抗うトレーニングをしてみようかと決意しながら、帰路につきました。

ご参加された皆様、お疲れ様でした。初めての参加でしたが、とても楽しい一日を過ごすことができ感謝しています。ありがとうございます。

ひと月一島、国内航路全制覇への旅(6)



～長崎県：対馬島～

広瀬元太郎 (60 期)

我が国の島の面積ランキングの話はややこしい。

まず、島の定義を決めなければならないからだ。世界的に見ると、日本で一番大きい島は、本州島である。ブリタニカのホームページ、The largest islands in the world によれば、「第 7 位 Honsyu 227,898 km²」とある。本州、たいしたものだ。

日本国内で論ずるときには、普通、本州、北海道、九州、四国は島として認識されない。とすると、第 1 位は沖縄本島とな

ると多くの読者は思っているかもしれないが、第1位は、択捉島(3,182.7 km²)である。さらに、第2位は、国後島(1,498.6 km²)、第3位に沖縄本島がでてくる(1,207.9 km²)。択捉島が、沖縄本島の2.6倍もあるのにはびっくりである。上位2島は、ロシアが実効支配しており、行けない島を「島」と定義していいのかとの問題がある。また、3位の沖縄本島が「島」とみなすのかについては多説あるし、感覚的には微妙である。よって、これらを除いた第4位からが、最狭義の「島」ということになる。そうすると、再狭義の上位は、以下の通りになる。①佐渡島、②奄美大島、③対馬島、④淡路島、⑤天草下島、⑥屋久島、⑦種子島…と続く。

堂々3位の対馬は、壱岐島の北西50キロの場所にある。対馬と壱岐の大きな違いは、地勢の険しさにある。壱岐は、それほど険しい山はないのっぺりした島であったのに対し、対馬のほとんどは山で、平地が極めて少ない。

壱岐島北部の芦辺港から高速船で1時間。対馬で最大の町厳原港に到着した(「いずはら」と発音する)。厳原にはショッピングセンターや14階建の東横インなどがあり、町の規模としては壱岐を上回っている。厳原到着時にはすでに暗くなっていたので、ホテルの裏のラーメン屋でラーメンを食べて寝た。

さて、次の朝となり行動を開始するのであるが、対馬と壱岐のさらに大きな違いは、韓国人とハングルの存在感である。壱岐においては、ほとんどいなかった(といっても、しゃべらないとわからないのだが)韓国人とハングル看板が、対馬では街に溢れている。昨日のラーメン屋の親父も、満員時に入ってきた韓国人に対して「満員なのでしばらくお待ち下さい」の意味と思われる韓国語で対応していた。



まず、島の南西端豆酸岬(すす岬)を訪問し、その後、北端の比田勝に向かう。島に行った際は、両端を訪問するのは礼儀である(壱岐でも

そうした)。対馬の南の端から北の端までは100キロ。片道で100キロ走ることのできる島はそんなに多くない。さすが、実質第3位の対馬である。



地図を見るとわかるように、対馬は中央部分にくぼみがあり、リアス式海岸の極めて複雑な海岸線が形成されている。筆者は、こういう複雑な海岸線が大好きで、小学生のころは面白くない授業中（特に国語）、超複雑

な仮想の海岸線を教科書の隅に書きまくっていたものだ。教科書を保存しておけばよかった。対馬の海岸線は、それに匹敵する。海岸線をじっくりと追っていくと、北側と南側に小さな海峡で分かれていることがわかる。そうすると、対馬は実は2つの島で、実質3位は偽りなのではないかという疑問が生じる。

実際は、この海峡は運河であり、人工的に陸地の狭いところを開削して水路にしたものである。パナマ運河の小型版である。この地点に行ってみたが、まさに人工的に切り開かれた場所であった。この運河は、1900年大日本帝国海軍によって開削されたそうである。理由は、佐世保軍港への時間を短縮するため。1900年といえば、日露戦争の5年前である。日本軍とロシアのバルティック艦隊が衝突した日本海海戦は、対馬の西の沖合で発生している。まさに、国防の最前線である。

なお、日本海海戦
というと、島の北側に日本海海戦記念碑というものがあり、「日本海海戦で撃沈された船から漂流したロシア人を対馬島民が助けた」という故事が碑文に書かれていた。ロシアの国旗が掲揚されて、風



にはためいていたが、ウクライナ侵攻の時節柄、たいへん微妙である。

厳原から最北の町比田勝に向かう道（国道382号線）は、ひたすら山である。広大な山と山の間の谷底や入り江に集落がある。山→山→トンネル→集落→山→トンネル→山→入江→山が延々と繰り返され、同じところを走っているのではないかと錯覚する。最近、対馬が売り出している対馬の名物として「ツシマヤマネコ」がある。対馬としては相当力がいっているようで、この山猫はマスコットになったり、そこらじゅうの看板に用いられている。ツシマヤマネコは、私のような素人から見ると、ただの猫にしか見えないのだが、絶滅危惧種である。こんなに山ばかりなのに絶滅してしまうのか。そういえば、イリオモテヤマネコが生息する西表島も山だらけである。

同じような景色の所を2時間ほど走り、最北の集落にたどり着く。ここから大韓民国の釜山までの距離は50キロ。筆者の自宅から金剛山までの距離は約40キロであるが、少々霞んでいても余裕で見えるので、晴れていれば50キロ先の釜山は見えるだろう。特に、最近の釜山は100階建てのビルが建ちまくっているので、ビルも見えるはずだが、今



日は若干霞んでいる。山っぼいのが見えるが、山といえば山ですかねという感じで、はっきりしない。

韓国は見えないが、韓国が近いことは間違いない。この島の観光客のうち日本人：韓国人の比率はおそらく1：9くらいだ。韓国展望台以外の展望台に上がった時、20人くらいの観光客はいたが、自分たち以外は全員日本語をしゃべってなかった。妻が、「写真撮りながら、『かわいい?』とか言うとりよ」と説明する。おいおい、なんで訳せるのか?スパイか?と問い詰めると、ドラマで覚えたとのことである。文化の交流はすばらしい。



対馬最北の港、比田勝港は、ちょうど釜山への帰りの船が出る時間で、対馬を回ってきた大量の観光バスが到着し、韓国人がみんな港に吸い込まれていく。町にはハングルの看板があふれている。日本語とハングルを併記するのではなく、ハングルだけで書いているので、何を書いているかわからな

い。北海道のニセコも日本語表記が省略されていたが、そちらは英語なので何とかわかるのだが…。

その日の夜は、この比田勝の東横インに泊った。海に面した8階建ての大きなホテルで100室以上はある。全く町の規模とは不釣り合いだ。当然の流れであるが、このホテルの宿泊者はほぼ全員韓国人であった。日本人との大きな違いは、旅行者のほとんどが20代くらいであるということだ。昨今、旅先で見かける日本人はだいたい50代以上であることからすると、この違いには目を見張る。韓国の少子化は日本以上と聞くと、少ない若者は海外に出ているのだ。がんばれ、日本の若者。

次の日も釜山を見ようと島の西海岸の「異国の見える丘展望所」というそのものずばりの展望台に行ったが、山らしいものが見えるという状態は変わらなかった。もう一度、空気の澄んだ冬にトライしたい。次は、大阪から釜山に行って、釜山から対馬に入国し、釜山を眺めてみたい。釜山に行っているのだから、わざわざ眺める必要はないのだが。

韓国は明確に見えなかったが、スマホに外務省海外渡航情報が送られてきた。海外の空港に着いた時に送られてくる奴だ。つづいて、ソフトバンクから「海外パケットし放題」とかが送られてきて、スマホの左上の携帯のキャリアが表示される場所に、知らない会社が表示される。韓国の携帯電波を拾ったようだ。50キロも届くのか。どんな出力なんか？勝手に韓国経由で通信をされて莫大な料金を請求されるのが怖いので、慌てて機内モードにした。やはり、韓国はすぐそこだ。

(続く)



ひと月一島、国内航路全制覇への旅

(特別編)

～岡山県：青葉島～

似瀬元太郎 (60期)



大阪から西へ陸路で数時間、瀬戸内海に浮かぶ「青葉島」への一人旅。この島は東西20キロ、南北15キロの大きさで、美しい海岸線と豊かな自然に恵まれている。乗り継いだ新幹線と地元の鉄道から乗り換え、フェリーに乗り込んだ。

フェリーの船上から見る海の色は独特で、船内では懐かしの歌謡曲が流

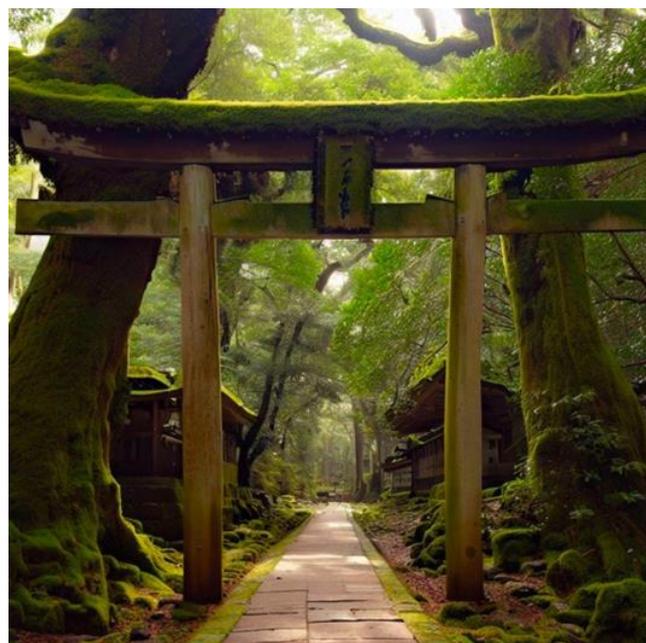
れる。田中リョウタロウの「潮風のハーモニー」だ。この歌手と私の出会いは高校時代、友人が持っていたカセットテープで初めて耳にした時からだ。彼の独特な歌唱法と、海をテーマにした歌詞に一目惚れした。その後、彼のライブに何度も足を運び、レコードもすべて集めるほどの熱烈なファンになった。昭和42年生まれの私にとって、この曲は青春そのもの。田中リョウタロウの歌声は学生時代に戻る魔法のような力がある。

青葉島には、港町の風情と、漁業が主要な産業。新鮮な魚介類の名物料理は、観光客に人気で、町並みには古き良き日本の風情が漂う。ここでは、古い家屋が現代に息づいている。

青葉島で宿泊した旅館は、古き良き日本の風情が残る素晴らしい宿だった。部屋に入ると、心地よい畳の香りが広がっていた。夕食時には、青葉島特産の珍しい食材が目白押しで、驚かされた。

まずは、島で獲れた新鮮なイカの活き造り。透き通るような白身に、島特産のシソの実を添えたもので、舌の上で溶けるような美味しさだった。次に、地元で取れた山菜を使った天ぷら。フキのとうやタラの芽などが繊細に揚げられ、口の中で踊るような感覚に包まれた。さらに、青葉島でしか見かけない珍しい海藻「青葉の海女」を使った汁物。少し苦みがありながらも、磯の香りが食欲をそそる。

旅館の主人は、少し風邪気味だった私に、青葉島の民間療法を教えてくれた。それは、地元で採れる薬草を鍋で煮て、鼻に蒸気を吸い込むというもの。少し滑稽な見た目になるものの、実際にやってみると驚くほど効果があった。青葉島の自然が育んだ食材と、人々の知恵に触れることができた貴重な体験であった。



青葉島には、古くから信仰されている神社がある。その名も「青葉神社」。島の人々からは「青葉様」と親しみを込めて呼ばれ、海と山を守護する神とされている。

この神社の由来は、古い伝説に基づいている。島が荒波に襲われた際、一本の美しい青葉の木が突如として現れ、海を静

めたという。その後、その場所に神社が建てられ、青葉の神として祀られることとなった。

祭神は「海の女神・水若宮」で、漁師たちの安全と豊漁を祈願する存在として信仰されている。また、島の緑を守る「山の神・緑岳大明神」も合祀されており、自然の調和と豊饒を象徴している。

神社の風景は、静寂と神秘に包まれた美しいものだった。参道は古木に覆われ、苔むした石段を登ると、神々しい鳥居が現れる。その先には、純白の社殿がそびえ立ち、境内には青葉の木が植えられている。夜になると、ランプの灯りが幻想的な雰囲気醸し出し、まるで別世界に迷い込んだかのような感覚に陥る。



青葉島の中心にある青葉の滝は、高さ 50 メートルの迫力ある自然の美しさを誇り、滝壺には伝説の鯉が住んでいると言われている。夏には島の広大なひまわり畑が一面黄色に染まるが、咲き誇るひまわりたちの裏には地元の農家と観光協会のせめぎ合いが絶えず、美しい風景の裏の葛藤には少し残念な感じがある。

明治時代に建てられた灯台は、歴史的な建造物だが、中はかなり狭く、登る階段は急で危険であり、頂上からの眺めも期待ほどではない。

島内には数か所の温泉地があり、青葉温泉は最も人気があるが、一部の宿泊施設では源泉のにおいが強すぎると不評の声も聞かれる。

青葉島には魅力的な名所が多くあり、島の自然と歴史、地元の人々との交流が最大の魅力である。

帰路の船で、島を振り返る。素晴らしい風景、素敵な人々との出会い、楽しい思い出。青葉島は、時代の風情と新しい発見が共存する場所であった。

船が港に戻る際、ある乗客が私の話に興味津々で耳を傾けていた。彼は「まだまだ未知の土地があるものだ」と感じたようで、それを聞いた私は心の中で微笑んだ。未知の土地を探求する喜びは尽きない。私の心に、新しい地図がひとつ増えた瞬間であった。

メイキングオブ「似瀬先生青葉島上陸記」

松尾洋輔（59期）

あれ、今回のニュースレターには島巡り記事が2本掲載？広瀬先生、仕事は大丈夫？そう思った読者の皆様、安心してください。2本目は広瀬先生ならぬ“似瀬先生”ことテキスト生成AI「ChatGPT-4」に書いてもらいました。

似瀬先生へのオーダーは、「架空の島の旅記事をでっち上げること」。今回の記事には何一つ真実は含まれていません。瀬戸内海には青葉島も存在しませんし、青葉神社も青葉の滝も実在しません。昭和42年生まれならみんな知ってる大ヒットソング「潮風のハーモニー」（田中リョウタロウ）を聴いたことがあるという人はたぶん働き過ぎで大脳皮質がお疲れなのでちょっと頭と体を休めることをオススメします。

それっぽい写真画像を貼り付けていますが、こちらもAI生成。Microsoft Bing チャット経由で画像生成エンジン「DALL-E」に嘘っぱち画像を生成してもらいました。

やー、AIってなんでもできちゃうのね、こりゃ世界が変わっちゃうねと思われるかもしれませんが、（特に日本語環境では）まだまだポンコツなところもありまして、そう簡単に似瀬先生に玉稿をいただけるわけではないのです。

生成AIに指示を与える文字列のことを、“プロンプト”と言います。現状では、AIを思うままに使役するには複雑で長いプロンプトの入力が求められるため、AI界限ではプロンプトのことを「呪文」、プロンプトを使いこなす職人を「魔術師」と呼んだりします。

今回は、駆け出し魔術師である私と似瀬先生のやりとりを少しだけご紹介します。

【第一稿】

-呪文-

##[指示]

あなたは、日本全国の離島を旅して旅行記事をタウン誌に寄稿しているエッセイストです。

以下の[設定]に準拠して、エッセイ原稿を出力してください。

##[設定]

1. あなたの属性

- ・昭和42年3月22日生まれ
- ・既婚者
- ・鉄道マニアで、既に日本国内の全路線に乗車した経験がある
- ・大阪で弁護士をしている

2. 今回の旅行

- ・週末の一泊二日で大阪から赴いた、日本海に浮かぶ架空の島への滞在
- ・一人旅

3. 原稿の要綱

- ・日本語で4000字程度
- ・「である」調

-出力- (下線は魔術師による)

昭和42年3月22日生まれ、大阪で弁護士をしている私は、鉄道マニアである。日本国内の全路線に乗車した経験があると言えるだけに、週末の一泊二日で訪れる日本海に浮かぶ架空の島への旅行は、新しい経験として心躍るものであった。

初日、大阪から電車で揺られ、港へと向かう。その道中で既に見慣れた景色を楽しみながら、新しい冒険への期待を膨らませていた。全路線を制覇した鉄道マニアとして、この新しい島への船旅は、新しい扉を開くようでワクワクするものであった。

船に乗り込み、大阪港から一路、日本海へ。海の青さ、風の香り、全てが新鮮である。鉄道とは異なり、海上の旅は私にとって未知の領域であった。

島へ到着し、最初に目を引いたのは、小さな港町の賑やかさである。漁師たちの笑顔と、新鮮な魚介類の香りが心地よく迎えてくれた。宿泊する旅館は、昔ながらの和風造り。一人旅とはいえ、温かいおもてなしを受け、すぐにくつろげる空間であった。

島の散策は、自然と文化の豊かさに溢れていた。古くからの神社や、珍しい植物、季節の花々。それらが織りなす風景は、心を和ませる力を持っていた。

一泊二日の滞在とはいえ、島の人々と触れ合い、新しい発見をたくさん経験した。大阪での日々とは違い、ゆったりとした時間の流れを感じることができた。

帰路、船から見る島の景色は、何かしら寂しさを感じさせた。この一泊二日の滞りで、私の心に新しい風景が刻み込まれたことを実感したのである。

日本国内の全路線を乗り尽くした私にとって、この架空の島への旅は、新しい視点と感動を提供してくれた。鉄道マニアとしての私でも、まだまだ知らない世界が広がっていることを痛感させられた旅であった。

この旅を通して、日本海に浮かぶこの小さな島が、どれだけ素晴らしい場所であるかを多くの人に知ってもらいたい。そして、旅の素晴ら

しさ、未知への挑戦の重要性を、改めて感じ取ることができることを願っている。

-魔術師の感想-

- ・設定を最初に使い切ってどうする
- ・しかも脈絡のない自己紹介
- ・架空の島の記事で架空の島って言っちゃダメだろ
- ・オリジナル広瀬先生のウィットの欠片もない・・・

【気を取り直して第二稿】

-呪文-

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・読み手が架空の島かどうかわからないように、島の設定を作り込んで書いてください。
- ・自分の生年月日を本文中にそのまま書くのではなく、昭和42年生まれの感性や体験を島での出来事に反映させてください。
- ・ユーモアを交えて、ちょっとした失敗談を取り入れてください。

-出力- (下線は魔術師による)

昭和42年生まれの私にとって、この週末の一泊二日の旅は、新しい発見の連続であった。日本海に浮かぶ美しい島への一人旅。鉄道マニアとして全路線を乗り尽くした私が、大阪からの新しい挑戦であった。

島へ向かう船の中で、昭和の時代に流行った歌謡曲が流れる。懐かしさに心が温まり、つい口ずさんでしまった。しかし、隣の若者には全く通じない様子。笑顔で聞いていたが、彼らにとっては古臭い曲なのだろうと、ちょっとした失敗談として笑いに変えた。

島の港町は、レトロな昭和の風情を残す美しい町並み。昔懐かしい駄菓子屋さんで、子供の頃の思い出のお菓子を見つける。つつい買ひすぎてしまう失敗は、ユーモアに変え、宿の主人におすそ分け。その笑顔が、この旅の良い思い出となった。

島の名物は新鮮な魚介類。昭和の感性でいうと、何とも贅沢である。しかし、これまた失敗談として、食べ過ぎてしまい、夜は少し胃もたれ。そんな私に、旅館の主人が昭和の民間療法を教えてくれた。ちょっとした失敗も、新しい発見となる。

島散策では、古くからの神社と珍しい植物、昭和の映画に出てきそうな風景が広がっていた。特に夕暮れ時の海岸線は、昔見た映画のワンシーンのようで、感慨深いものがあった。

帰路の船で、再び懐かしの歌謡曲。今度は隣の若者に教えながら歌い、一緒に楽しんだ。時代を超えて、人々と繋がる旅の魅力を感じた瞬間であった。

この小さな島は、昭和の風情と新しい発見が共存する素晴らしい場所。ちょっとした失敗も楽しい思い出となり、新しい人々との出会いを提供してくれた。鉄道マニアの私でも、まだまだ知らない世界が広がっていることを、この島の旅で感じたのである。

-魔術師の感想-

- ・「昭和42年生まれの私」なんて書き出しがあるかいな
- ・「ちょっとした失敗談」と指示されて「ちょっとした失敗談」て書いてちょう？
- ・これは思ったより大変だぞ・・・

ここからは、（涙ぐましい）呪文集をご紹介します。それぞれの出力結果はご想像に任せます。

-呪文-

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・島の情報を読み手に伝えてください。名前、大きさ、おおよその位置、名物、産業など。
- ・字数を6000字に増やしてください。
- ・ちょっとした失敗談はひとつに絞ってください。くどいです。

-呪文-

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・同じ単語を何回も使わないでください。特に「失敗」「鉄道マニア」という単語は二度以上使わないでください。

-呪文-

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・旅行記を締めくくるオチを最後に追加してください。
- ・「全路線を乗り尽くした」「全国の鉄道を乗りつくした」は同じことの繰り返しになっています。重複は避けてください。

・「この交流が、旅の始まりの良いエピソードとなった。」「これが、この旅のちょっとしたエピソードである。」という表現は蛇足です。削除してください。

-呪文-

「話のオチ」という概念は理解できますか？

-呪文-

ずいぶん良くなりました。

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・「昭和 42 年生まれ」という情報は、往路の船で歌謡曲が流れる場面で初めて出すことにしてください。
- ・船で流れる歌謡曲を歌っている歌手の名前を考えてください。実在しない歌手がいいです。
- ・あなたはその歌手のファンだったという設定にしてください。
- ・旅館の主人が教えてくれた民間療法の内容をもう少し詳しく紹介してください。ちょっと滑稽なものがいいです。

-呪文-

[指示]

以下の[ポイント]に従って原稿を修正してください。

[ポイント]

- ・歌手が実在しないことを読み手に伝えないでください。
- ・大阪は日本海に面していません。日本海に出るまで陸路を使った描写を入れるか、別の海の設定にしてください。

・・・とまあこの後もリテイクにリテイクを繰り返し、ようやく完成したのが今回の原稿です。一人前の魔術師への道のりは長く険しい。

生成 AI の世界は日進月歩で今日身につけた知識が明日には古くなってしまふこともザラにあるようですが、爆発的成長期の今しかないお祭り感もあり、今後も目が離せません。



執行部だより

若手会世話役担当副幹事長 西祐亮（71期）

今年度、若手会世話役担当副幹事長の西祐亮です。どうぞよろしくお願いたします。まずは、私の自己紹介を簡単にいたします。

兵庫県の男子校に通い、京都で大学時代を過ごし、大阪で修習時代を過ごしました。今年で31歳になり、各方面の友人の結婚式に呼んでもらうことが増えており、時の流れの速さと残酷さに驚くばかりです。

趣味はドライブです。和歌山県や滋賀県の方まで音楽を聴きながら運転をして、きれいな景色や街並みを見て心を癒しています。また、休日の接見は車を運転して行くことで、趣味と仕事を両立させています。

春秋会では、これまで1年目と2年目は親睦委員会に所属し、4年目は若手会世話役をしておりました。尊敬できる諸先生方と活動する中で、イベントの企画方法や集客方法などを勉強させていただきました。今年度、若手会世話役担当の副幹事長を務めさせていただいておりますので、若手会企画において、一人でも多くの若手会員の方にイベントに参加していただき、会員同士の交流を深められるきっかけ作りができればと考えております。

次に、本年度の若手会の報告と告知をさせていただきます。本年度の若手会は、毎年恒例の浦寛幸さんの破産研修の他、親睦委員や研修委員との共催で1、2か月に1回の頻度で企画を実施してきました。本年の後半は、若手会単独での屋形船企画、BBQ企画を開催する予定です。更に、来年の2月頃には新人歓迎会兼追いコンを実施します。若手会所属の先生方におかれましては、これらの企画に積極的にご参加いただけますと幸いです（若手会から補助が出ますので、かなりお得に楽しんでいただけます）。

若手会世話役の打ち合わせは毎月1回の頻度でZOOMを利用して行っています。メンバーは9名ですが、ほぼ全員が毎回出席しており、和気藹々とした雰囲気イベントの企画について会議をしています。

若輩者ではございますが、今回、岩本先生からいただいたご縁を大切に、できる限り議論の場に若手の意見を反映させることで春秋会がより良い会派となるよう、精一杯活動して参る所存ですので、春秋会員の皆様におかれましては、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

広報委員会委員長 松尾洋輔 y-matsuo@dojima.gr.jp